

校長挨拶

「子どもたちに感謝」

斎藤 滋

校長室に立ち寄った中学生が本棚にある絵本を手にとって、「懐かしい！この本を読むとほっこりする」と言いました。「ほっこり」というのは「心が温かくなる」という意味だと思いますが、多分小さい頃から何度も読み返していた本なのでしょう。きつと誰にでもそういう本が何冊かあると思います。そつと本棚から取り出して読み返したくなる本があるつてなんて素敵なことでしょう。

私の心を温かくしてくれるのは本だけではありません。校庭で遊ぶ子どもたちの笑顔、授業中に学習に集中する子どもたちの眼差し、ときどき遊びにきてくれる子どもたちとの会話、折り紙で作ったものを「これあげる」と言つて手渡してもらえたとき、このような子どもたちの頑張る姿や優しくに触れることができる。日々感謝です。

ある日、「休み時間が終わつてみんな教室に戻つてしまふと寂しくない？」と言つた子がいました。自分が楽しい時間を過ごすことが一番大事なことはずなのに、そんなことまで気にかけてくれる子もいます。誰よりも子どもたちに優しくしなければならぬ自分が、そのように子どもたちの優しさに支えられています。

さて、6月4日には学校説明会がありました。昨年から卒業生保護者に来校者の質問に答えていただくようにしました。好評であったために今年も継続して行つていただきました。来校された方も、中学生、高校生、大学生になった子どもを持つ方には聞いてみたいことがたくさんあるように感じました。小学校入学までの準備のこと、小学校に入学してから、中学校と家庭との関わり方、中学生になってからの反抗期のこと、勉強についていけないつたら、

いじめがあつたらどうしたらいいか、教員が担当する質問コーナーでは聞かれなような質問がたくさんあつたようです。そのときに、そういう機会を求めているのは子どもを小学校に通わせている保護者の皆さんと同じではないかと思ひました。もしそうであるならばこのような機会を設けることはできそうな気もします。皆さんからのご希望があれば前向きに考えたいと思ひますが、いかがでしょうか。また、今年の説明会で私が思つていた企画を実現することができました。それは、子どもたちによる学校説明です。ご存知のように、総合の授業では5年生になると自分で研究したことを、調べたことをまとめて発表するという活動を行っています。5年生のときにパワーポイントの基本的な使い方を学び、6年生での発表に向けて準備をします。今年、6年生になってつぐに、各々が考えたテーマで学校紹介の準備をして

らいました。宿泊行事、委員会活動、兄弟学年、土曜講習、英語学習、クラブ活動、施設、農園活動などテーマは様々でした。私がよかつたと思うのは、それぞれ発表の中で、自分がどのように関わつていくか、何を学び、何を学べるかができたかを一人ひとりがしっかりと述べていたことでした。来校者からの評価が高かつたのは、プレゼンソフトの完成度だけでなく、一つひとつの発表の中に、発表者の思いがしっかりと表現されていたからだと思います。「小学生がここまでできるのですね」と驚かれています。私には理解できるものでした。発表が終わつて会議室に集まつた子どもたちの表情からは、大きな達成感が感じられました。学校説明会という大切な行事において自分たちの力が発揮できたという満足感もあるように思ひました。

学校という場では、子どもたち全員の力を平均的に向上させつ、一人ひとりが自分の力を発揮できる場を多く用意することが大切であると考えます。そこで得ることの多少はそれぞれで異なつてもよいのであり、そこまで皆同じというわけにはいきません。子どもたちの力を信じ、共に歩む気持ちを持つことが、子どもたちの成長を促すことになることを改めて感じることができました。

# 平成二十八年年度 各学級 一年間の目標

新しい年度が始まって二ヶ月ほどが経ちました。  
今年度、各学級で大切にしたいこと  
をご紹介します。

## ★一年一組★

人との関わりの中から、友だちのよい所だけでなく、自分のよさや成長も感じられるような学級を目指しています。その軸となるのが、「個のがんばり」と「思いやりある行動」と考えています。努力をすることで、できないことができるようになった時の喜びは、個の成長につながります。そしてそれを友だちが評価をすることでその成長がさらに大きな力や自信につながっていきます。このようなサイクルが繰り返される環境を整えるために学級目標を掲げました。それは、「自分の気持ちを言葉で伝えよう」「あきらめないで努力をしよう」「思いやり」の三点です。この一年間で、自分だけでなく、友だちやクラス全体の成長も感じられる子どもたちになってほしいです。(蒲谷誠一)

## ★一年二組★

子どもたちには、学校生活の中でたくさんの人と関わり、互いの良い所を認め合いながら成長していったほしいと考えています。授業の中で友だちの考えを聞いて自分の学習を深めたり、休み時間に相手からかけられて嬉しかった言葉やしてもらった嬉しかった行動を、次は自分が誰かに進んで行ったり、さまざまな場面で人との関わりから学ぶことを大切にしていきたいです。学級では、「よいと思うことを自分からする」「友だちの意見を大切にする」「『ありがとう』や『めんない』をわすれずに言う」の三つの目標を意識して生活しています。私たち教員も、子どもたち一人ひと

りの頑張りや成長を取り上げ、互いを認め合える環境を作りながら、子どもたちの成長を支えていきたいです。  
(大木菜々絵)

## ★二年一組★

子どもたち一人ひとりが安心して過ごせるクラスを目指しています。クラスの目標として掲げたことは、「目標を持ち、とことんやりぬく」「あたたくくはげまし合う言葉をかけ合う」「友だちや世話になっっている人に感謝する」の三つです。子どもたちらしさをクラスの中で発揮でき、それを周りの友だちが認められるような雰囲気づくりをしていきたいと思っています。帰りの会では友だちやクラスのいいところを発表し共有する時間を作っています。友だちのいいところを見つめる目を養い、あたたかい言葉で伝える表現力を育むことも大切にしていきたいと思っています。あたたかい雰囲気の中で、子どもたちの「好きなこと」「できるようになったこと」が増えるような二年一組にしていきたいです。  
(森山沙也加)

## ★二年二組★

昨年度、人との関わりを大切にしたいと願い、学級目標を立てました。学年が上がリ、上級生となった今年度「下級生の手本として行動できるようにになりたいね」と子どもたちと話し、校訓を基に三つの目標立てました。「やらなければならぬことをやり遂げ、好きなことに夢中になれる子」「相手のことを考えた挨拶や丁寧な言葉遣いができる子」「周りの友だちや生き物を大切にすること。友だちや世話になっっている人に感謝できる子」です。この二ヶ月、一年生に教室の場所を教えてあげたり、水をこぼしてしまったときに雑巾を持ってきて拭いてあげたりと、上級生らしさを見せています。一年生から「二年生ってすごいね」と感じてもらえるような上級生を目指し、考えて行動していく子どもたちを見守っていききたいと思っています。  
(尾崎成美)

## ★三年一組★

「はじめと礼儀 みんなのために進んで行動笑顔いっぱい三年一組！」という学級目標のもと、子どもたちと過ごしています。進級した三年生には、中学年として自分のことだけではなく、周りの人に目を向けて、自分にできることを考えて行動できるよう成長してほしいと話をしました。子どもたちは、思いやりをもって行動すると、周りの人を笑顔にできることを知り、時には失敗しながら精一杯、自分のできる行動をしています。それらの行動は、普段の生活や係活動、当番、遊びなどさまざまなところで見られます。つい自分のことで精一杯になってしまうため、周りが見えなくなっていることもまだまだあります。その中でも、クラスの仲間を大切にすることをもち、それを行動に移して成長していく姿を支えていきたいです。  
(馬渡絢子)

## ★三年二組★

新年度がスタートした初日、最も意識してほしいこととして、子どもたちに次の三つを伝えました。「話をきちんと聞くクラス」、「切りかえをすばやくしつかりできるクラス」、そして「誰に対しても、思いやりの気持ちと敬意を持つクラス」です。これに加えて、校訓を反映させた「約束を守る努力をし、責任を果たすクラス」と「誰かのために進んで行動できるクラス」の二つを、先の三つに準ずる目標として伝えました。素直で、「がんばろう!」という気持ちを強く持った子ばかりです。今はまだ足りないところもありますが、互いに「自分もがんばろう」と思えるような雰囲気やクラスを作っていくこと。これを大事に考え、学級作りをしていきます。  
(浅利直樹)

★四年一組★

四年生の学校生活が始まり、朝の会では綺麗な歌声を教室いっぱい響かせながらも、日直や係などの発表の場面になると気持ちを切り替えて真剣に耳を傾け合う様子を見る。

成長を共に振り返りながら、「一人ひとりが様々な場面で主役になれるクラス」「共に認め合い、学び合えるクラス」を目指し、その一つに、友だちの『よりよくなりたい』という願いを温かい気持ちで応援できる雰囲気をつくりだす。みんなで話し合おうと伝えました。現在は、「優しく思いやりながら話を聴く」「けじめや切りかえを大切に、みんなを一つにする」「互いの考えを認め、譲り合いや助け合いの心を持つ」の三つの学級目標を掲げ、日々、様々な取り組みに挑戦しています。子どもたち一人ひとりの抱く様々な願いや思いを大切に、四年生の新たな学校生活を主体的に歩んでいけるよう、それぞれの気持ちに寄り添いながら見守っていききたいです。

(鈴木健太郎)

★四年二組★

四年二組では、「やるべきことはしっかりとやる、楽しむときは全力で楽しもう」「クラスはみんな仲間。みんなで助け合おう」と伝えてきました。これは、昨年度から伝えてきたことです。今年度は、それに加えて、「求められたことに応えられる人になってほしい」と話しました。これらをふまえて、子どもたちと四年二組をどんなクラスにしたいかについて話し合いました。その活動を通して、子どもたちが掲げたクラス目標は、「人のいやがることをせず、人のよさぶつをすること」「自分たちでけじめをつけた行動ができる」です。

これらの目標を大切にしながら生活することで、子どもたちと共に温かく、穏やかなクラスを、また三月になったとき、「自分たちは成長した」と自信を持って言えるような、そんなクラスを作っていきます。

(石井香菜子)

★五年一組★

「自主・自律」

日々の学校生活において、いろいろな活動を自分たちの前向きな意思のもと行っていけるようになってもらいたいと考えています。また、自分たちの生活を楽しくもよりよいものにしていくために、自分がしたいこと・できることを見つけ、実践できるようにも前向きに取り組めるようにしていくと共に、生活をよりよくしていくために色々な提案をしてもらいたいと思っています。少しづつ子どもたちの世界は広がっていきます。その世界でたくましく生きていくには何に対しても自主的に取り組む姿勢が必要となってきます。自分を律しながら苦手を活動に対しても楽しく前向きに取り組む、自分たちの生活を自分たちでつくっていくようにしていきます。

(新井航)

★五年二組★

子どもたちが安心して生活できる学級を目指しています。このような学級にするために、相手を意識した言葉や行動を選び実行できる子、自分に自信を持って生活できる子になってほしいと考えています。学級という集団は、自分だけが生活する場ではありません。一人ひとりが、周りの友だちのことを考えた言動を意識することで笑顔が増え、思いやりのある言葉も増えていきます。それにより、自信を持って自分を表現でき、いろいろなことに挑戦しようと思えるようになります。こうしたよい流れの中で、個人、そして学級が成長できるようにしたいと考えています。子どもたちが意見を出し合って決めた学級目標「高学年らしいクラス 元気・笑顔・努力・思いやり」にも、同様の思いが込められています。

(佐藤浩太郎)

★六年一組★

「見本く低学年の見本となろう」

委員会、クラブ、地区別集会など、様々な場面で最上級生としての役割が期待されています。下級生を引っばっていき、学校の活動を作っていくのは自分たちということを自覚し、下級生の憧れの存在となってほしいです。

「笑顔く笑いの絶えないクラスにしよう」

楽しいこと、新しいことをやるのが大好きな一組の子どもたちです。子どもたちのアイデアで、昨年よりもさらに充実した楽しい毎日になることを期待しています。

「敬意く敬意を持って接しよう」

他者を大切に、敬意を持って接するという目標が子どもたちから出てきたことは大きな価値を感じています。

自分たちで決めた三つの目標です。常に意識して毎日の生活を送ってもらいたいと思います。

(福富直史)

★六年二組★

学級目標の中に、「行動するときにひと工夫加えよう」という言葉があります。大切なことに気づき、意識して生活しようとしている子どもたちがとても頼もしいです。

「ひと工夫」は、相手のことを思うときに自然に行動に表れるものです。相手の長所を見つけたら言葉にしてみる。挨拶のついでに心地よい言葉を交わすことができる。そんな《当たり前だけれどちょっと照れくさいこと》ができる人に成長してほしいと願っています。

学校生活は、一人ひとりの心にある「正しさ」を出発点に、それを集団の中で共有し、周囲に流されることなく行動できる場でなくてはいけません。信頼できる仲間の力が、強くしなやかな心を育てていくと思います。

(猪狩裕亮)

# 活動◇紹介

日頃の様々な活動において、実際の実践を厳選し、そこでの様子や指導のねらいなどを紹介します。

## 新任の先生の挨拶



授業は理科を担当しています。植物、生物の変化に子どもたちと驚く日々です。この前、事前に育てていたモンシロチョウが羽化しました。昔は昆虫が苦手な私にとって自分で育ててみる、なんて考えられないことでした。けれど、卵から世話をしていく中で日々の成長が楽しみになり、新しい発見に出会いました。物事に対して「苦手だから」で終わらせるのではなく、「やってみよう」という気持ちを大切に、1年を過ごしていきたいです。  
(豊田里穂)



男の子2児の母です。4年前まで在職していましたので、久しぶりに会った6年生や中学・高校に兄弟がいる子どもたちからは、「私のことを覚えていますか?」と、よく声をかけられます。しかし、どの子どもも立派に成長していて、思い出するのに時間がかかりました。

今年度は、2・4年生の図工、2年生の音楽を担当しています。どちらも心を豊かにする芸術教科です。ともに表現する楽しさを感じられる時間にしていきたいと思います。(森本祐子)

## 学校宿泊訓練

5月27日(金)～28日(土)に、学校宿泊訓練が行われました。主な内容は以下の通りです。

【講演】日本赤十字社の内田氏をお招きしました。東日本大震災や熊本大震災の被災地に赴いた経験に基づき、非常時に備えてすべきことや心構えについての貴重なお話を聞くことができました。

【非常食体験】食事の準備は、プロパンガスを使って行いました。27日の夜は非常用炊飯袋を使って炊き、28日の朝は学校の防災備蓄品の一つであるマジックライス(湯戻しのご飯)を食べました。こちらは約15分間で出来上がります。

【シュラフ体験】教室の床に一人ずつマットをひき、その上でシュラフに入って就寝しました。

「シュラフではよく眠れませんでした。こんな生活が1ヶ月も続くのかと想像すると、被災地の人の辛さが少し分かった気がします」という子どもの感想がありました。水道も電気も使える環境での訓練ですから、全て非常時さながらとはいきません。とはいえ、温かいご飯を何不自由なく食べて、布団で休める普通の生活の有難みを感じるとともに、講演で学んだ《自助》

(自分の命を自分で守ること)の意識を高めることができたのは大きな収穫でした。

